

政令改正により「マジックマッシュルーム」が新たに麻薬原料植物に指定されました。この政令は2002年5月7日に公布され、6月6日から施行されます。

以下は、(財)日本中毒情報センターが医療関係者向け日刊紙「Japan Medicine」(株式会社じほう発行)に連載してありました「最近の中毒と医療」に掲載した「マジックマッシュルーム」(2000年10月26日No.142号)についての記事です。なお、(財)日本中毒情報センターへの問い合わせは2000年32件、2001年55件でした。

最近の中毒と医療 (7)

マジックマッシュルーム

マジックマッシュルームとはシロシピン群キノコを含め幻覚作用を有するキノコの俗称である。シロシピン群キノコは日本にも自生し、幻視を主訴とする食中毒例も報告されている。また、近年合法ドラッグとして乾燥キノコだけでなく、栽培キットや錠剤、粉末、液体の形でも出回っている。(財)日本中毒情報センターへの幻覚性キノコに関する問い合わせは1996年0件、1997年1件であったのが、1998年10件、1999年19件と急増した。患者は20代が40%を占めていたが、10代後半～50代後半まで広がっており、入手状況が判明した12件中42%がインターネットや雑誌の通販で購入していた。

症例 32才、男性

雑誌の通販で購入した幻覚性キノコ(乾燥状態、傘部4個と茎少量)をビールとともに服用し、約4時間後手足のしびれ、息苦しさが出現した。約6時間後の受診時、意識清明で、幻覚も認められなかったが、頻脈、口渇、脱力感等があった。輸液を行い、服用6.5時間後には症状は治まった。来院時の尿中からシロシンが検出され、血清からは未検出であった。

シロシピン群キノコに含まれる幻覚作用物質としてはシロシン、シロシピン等が確認されている。シロシピンはLSDと同様にセロトニンの構造に類似しており、セロトニンレセプターに作用して幻覚等様々な症状を引き起こす。

シロシピン群キノコを摂取すると、直後から不安感、不穏状態のほか嘔気、脱力感、口唇のしびれ等が出現し、30～60分後には幻覚、流涙、発汗、注意力低下等がみられる。1、2時間は幻覚の増大がみられるが、症状は徐々に消失し、4～12時間内に正常に戻る場合が多い。幻視を主とするが、幻覚は聴覚や味覚にまで及ぶこともある。色彩豊かな幻覚状態(good trip)を意図して摂取した場合でも、精神的緊張や不安が高まりパニック状態(bad trip)となることがあり、bad tripはこれまでgood tripを経験していた人でも起こる場合がある。痙攣、昏睡等の重症例はごく稀で、多くは対症療法のみで治療される。しかし、海外で痙攣重積による小児死亡例が1例あり、また、幻覚による自傷行為等が問題となる場合もあり注意が必要と思われる。シロシピン、シロシンおよびその塩類は1990年に麻薬に指定されたが、幻覚性キノコについては現在のところ規制されていない。